

2016年度 湘南藤沢学会研究助成基金成果報告書

「関西フランス語教育研究会における発表」

総合政策学部 3年 立花 勁史

1.概要

フランス語教育に携わる現場の教員や教育関係者たちが集う場である[第30回関西フランス語教育研究会(RPK 2016)]にて、「私たちの考える中等教育における外国語学習の提言」というタイトルで発表を行った。同会は「アトリエ」の形式を取り、参加者同士で考えや経験談、授業での実用的なテクニックについて意見交換を行えることが特徴である。

研究会では「公益財団法人国際文化フォーラム編『外国語学習のめやす 2012-高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(2012年)」や「竹内理、水本篤編著『外国語教育研究ハンドブック』(松柏社 2014)」などの輪読を行い、外国語学習の理論を学んできた。一方で、弘前大学の学生と協働して「弘前×フランス」のイベントを行い、首都圏と地方、それぞれの外国語との関わり方の違いや地方の外国語との関わりを考えるフィールドワークを行ったり、私立横浜女学院高等学校を訪れ協働学習を通じて多様性を育むための特別授業(受験と離れた外国語学習)を行ったりした。

発表では、外国語学習の目的を「中高生が異文化に触れ、多様性への気づきや複眼的視野の獲得にも寄与すること」とし、これまでの研究会で行った弘前と私立横浜女学院高等学校の活動を紹介しながら、会の参加者と、中高生に適した外国語学習の在り方を考えた。

2.参加者・実施場所・実施期間

参加者：

国枝孝弘 慶應義塾大学総合政策学部教授

政策メディア研究科1名

総合政策学部4名(3年1名/2年1名/1年2名)・環境情報学部1名(3年1名)

実施場所：大阪府大阪市北区芝田2丁目5-8 上田安子服飾専門学校

実施期間：2016年3月25日(金)・26日(土)

3.成果報告

発表では学部生による「弘前×フランス週間プロジェクト」・「横浜女学院」を

行い、そのまとめとして大学院生による「」の発表を行った。全体 90 分のうち、研究会の簡単な紹介や研究会員の紹介を除いて、約 45 分間発表を行い、残りの時間を質疑応答兼議論を深める時間とした。

まずは我々が弘前を訪れた際に現地の高校生を対象に行ったインタビュー調査を題材に、地方における外国語や外国文化との関わりに関して、研究会内で議論した内容を発表した。インタビューにおいては十分な時間や空間を確保することができなかつたため、街角調査のようになってしまったという経緯がある。質疑応答の際はその点に関して質問をいただき、次回以降学生にインタビューを行う機会がある場合は、文献やケーススタディを使用した入念な準備の後に研究成果として報告するにふさわしい環境を作ることで、より充実したフィールドワークを目指したい。

次に、私立横浜女学院高等学校で行った授業内容を紹介した。授業はクイズとディスカッションの 2 部構成であった。その構成に至った理由や、クイズの内容、ディスカッションのテーマについて、準備段階に研究会内で議論した内容を踏まえ、実際にいくつかのクイズを紹介しながら発表した。質疑応答では、授業が活発であった理由や、学生が関心を持ちうるテーマに関する議論が起こった。

最後にまとめとして『『弱いつながり』と共に』として「東浩紀(2014)「弱いつながり ～検索ワードを探す旅～」幻冬舎」を題材に、中高生と外国語や外国文化の関係性について発表を行った。特にこの発表に関心を示す参加者が多く、教室内で参加者同士が自主的に議論を始める場面も見られた。2つの具体的な事例と 1つの社会科学的視座から発表を行い議論も十分に行えたため、参加者の満足度は概ね高く、良い評価をいただけた。

4.今後の発展

28 年度春学期以降も本研究会は輪読・フィールドワークの両方を継続する予定である。外国語や外国文化と学生の接触により生じる、学生の内部での自己変容やそのあり方について、今後も研究活動を続けていく。

(写真は発表中の学生と、質疑応答に答える國枝先生)

